

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シルビアンゆらら		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 26日		～ 令和 8年 3月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 26日		～ 令和 8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的なケアを含め、個々に応じた支援を行っている	医療ケアが必要な子どもを含め、利用児童が全員で同じ時間で同じ活動ができるように工夫している。 医療的なケアや、個々の関わり方については家族や関係機関と連携を図って常に検討を重ねている。	子ども達の成長や状態の変化に伴い柔軟にケアの対応ができるように、家族や関係機関との連携を密にもつ。 さらに、地域の保育園や幼稚園、こども園入園を想定して1日のケアの組み立てを検討する。
2	家族と一緒に子ども達の成長や課題を共有できるように送迎や来所、退所時。お便り帳、通信を通じて子ども達の日常の様子を細かく伝えている。	職員間で情報を共有して、家族の子育てのサポートを行う。 活動中の子ども達の様子を色々な場面で撮影し、通信やLINEを活動してお知らせすることで、日頃の子ども達の様子が見られるように配慮している。	家族の困りごとに対して、トータル的にサポートできる様日頃か相談支援専門員と関り、幅広く対応できるようにする。 また、育児やケアに関する相談の役割があることを家族に周知する。
3	法人内で年間を通じて様々なテーマの研修を職員全員対象で行われている。知識を深め支援に活かすことができる。 また、外部の協議会などの参加し保護者や職員にとって有益な情報の収集に努めている。	情報共有する場では職員が参加しやすいように勤務調整を行っている。 参加ができない場合でも受講した職員から伝達できる機会を設ける事で全体で理解が深まるようにしている。	さらに幅広い内容の研修が実施できるように努める。 また、研修だけではなく保護者に向けた研修等の開催も検討している。知り得た情報が家族に周知できるように工夫する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーの環境が整っていない為。バギーを使用する児童に移動に工夫が必要。	元々住居として使用していた建物を活用している為バリアフリーの環境が整っていない。	室内の低い段差にはスロープを付け、内階段には手すりを付けてすこしやすい環境を整えている。 バギーを利用している児童も安全に過ごせるように外階段には福祉用具の業者と相談。
2	保護者を招いた行事の開催が少なく保護者同士の関わる機会が少なくなっている。	以前は「お茶会」を通じて保護者が関わる機会があったが、コロナ禍を期に滞ってしまった。 再開できるように調整している。	保護者交流の機会の意味合いを含めて運動会や発表会に保護者を招いて開催している。 今後、保護者参観など、集まれる機関を増やすことで交流の機会を設定する。
3	非常災害時の対応方法や計画について職員や家族に周知が十分ではない。	担当者会議等で個々の非常災害時について話し合う機会があったが保護者と事業所間での災害時対策の情報交換が不足しており事業所から訓練について発信が十分ではなかった。 シフトの関係で訓練に参加していない職員に共有できていない情報もあった。	安全計画、避難訓練の見直しをすると共に、職員間で共有方法も検討する。家族と避難方法について詳細について確認して計画に基づいた非常災害時の訓練の様子も保護者向けに発信していく